

追悼山行報告

2017年8月6日

山田昭一

亡くなって3年になる高橋洵さんと、33年前に北鎌尾根で亡くなった古田和春君の追悼に、古田君の追悼碑のある湯俣に行ってきました。ここには高橋さんも2009年に古田君の兄さんたちと共に訪れた思い出の地でもあります。(その時の写真はOGACホームページの「古田和春くん」→「2009年7月」→「写真はこちら」をご覧ください。)それは私が高橋さんとご一緒した最後の山でした。

1. 日時

2017年7月13日(木)-15日(土)

2. メンバー

- ・ 追悼隊 大藤 勲 (79)、斎藤清雄 (74)、上島康嗣 (64)
- ・ 追悼&縦走隊 小林俊人(68)、吉田隆三(68)、高橋浩史郎(39)、山田昭一(67)

3. 行程

7月13日(木) 大町 → (自家用車) → 七倉 → (タクシー) → 高瀬ダム → 湯俣・晴嵐荘泊

7月14日(金) ・ 追悼隊 湯俣 → 竹村新道・古田碑 → 湯俣 → 高瀬ダム → (タクシー) → 七倉 → (自家用車) → 高橋邸 → 帰宅
・ 追悼&縦走隊 湯俣 → 竹村新道・古田碑 → 湯俣岳 → 南真砂岳 → (真砂岳) → 野口五郎岳 → 野口五郎小屋(泊)

7月15日(土) 野口五郎小屋 → (三ッ岳) → 烏帽子小屋 → ブナダテ尾根 → 高瀬ダム → (タクシー) → 七倉 → (自家用車) → こまどめの湯 → 高橋邸 → 帰宅

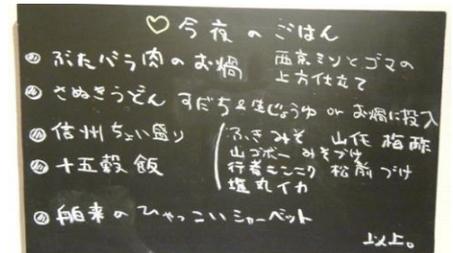
4. 行動記録(主として山田の記録です。)

7月13日

山行に入る前から大波乱。大町に向かって高速を運転中に芦澤さんから緊急電話。名古屋8時発のしなの3号が大雨の影響で運行の目途立たずと。(結果は運休。)更に、この日のために施設に預けてきたお母さんの具合がよくないと連絡が入ったとのことで、芦澤さんは山行を断念して名古屋から引き返すと。親孝行娘としては放っておけませんよね。楽しみにされて色々と段取りを立ててやっここまで来られたのに、残念無念ですが致し方ありません。

という訳で、名古屋からは大藤さんがお一人で、3時間も遅れて2時過ぎに大町に到着されました。お疲れ様でした。(因みに、斎藤さんは一足先に夜行バスで大町入りされてました。)

大町からは、大藤さん到着前にまず4人が先行。遅れて大藤さんと小林、山田が出発。そこからは順調。梅雨明け前というのに雨の気配はまったくなく、いい感じ。高瀬ダムから平坦な散歩道を2時間半ほどで晴嵐荘に到着。その日の登山客は我々のパーティーのみ。ひと風呂浴びて夕食の宴。山小屋で温泉にはいれる贅沢を満喫。夕食メニューは写真のと通りの御馳走。古田さんからの差し入れ資金を使わせて戴き、ビールや珍しいウイスキーや持ち込みのワインなどで和やかに盛り上がりました。古田さんに感謝。



7月14日

梅雨どころか、まったく夏の青い空。これは暑くなりそう。朝の散歩で、小屋の前にカモシカと思しき頭蓋骨を見つけました。胴体はないので小屋の人がどこかで見つけて拾ってきたのでしょうか。吉田は朝から不調を訴え、朝食抜きで出発。



カモシカの頭？

展望台までの登りはさすがにきつい。ここに碑を再建した10数年前は快適に30分で登れたのに、今や息も絶え絶えに45

分。人工膝関節の大藤さんはさすがにここまでは来られませんでした。すっかり晴れた夏空に北鎌尾根から槍の



穂先や小槍まですっきり見えて気分爽快。時期遅れかと思っていた石楠花もちゃんと咲いていて古田君の追悼供養に文字通り花を添えてくれました。



慰霊碑にて(撮影:小林)



「千丈の谷間に散りし君なれば
折りてささげむ石南げの花」
正直



慰霊碑から槍ヶ岳を望む

ここで下山組と別れていよいよ竹村新道の長い登り開始。元気な小林が先行し、遅れて山田、朝から体調不良の吉田は更に遅れ、高橋はそれをしんがりでサポート。えらい。登山道はしっかりしているが、結構な急登。暫くすると登山者が一人下りてきた。野口五郎小屋からだとのこと。上部に雪が残っており、踏み跡をつけてきたので分かるだろうと。この人は踏み跡がなく迷ったらしい。ともあれこの人がこの日に晴嵐荘から野口五郎小屋の間で出会った最初で最後の人でした。天気は若干ガスが沸いたりして、槍も時々見え隠れ。日差しも若干ながら弱まって暑さは幾分はマシに。それでも樹林帯の中で蒸し暑い。碑から3時間半で漸く湯俣岳に到着。まだこの日の行程の3分の1。うーん、まだ先が長いなあ。



湯俣岳からもちっとも楽にならないうんざり道。道中記に書く



南真砂岳直下のコル

ような面白いことは何もない。けど、苦しくても楽しいのが山登りの不思議なところ。「しんどいなあ、きついなあ」を連発しながら、結構楽し



南真砂岳への登り

んでいる。天気はいいし、この時期は日が長く、ゆっくり行っても明るいうちに着けるさという気持ちの余裕もあるからでしょう。それにしても、朝食抜きでこの暑さ、この急登を頑張る吉田の根性は凄い。

南真砂岳からは幾分斜度も落ち、表銀座の主稜線も見えて若干気力回復。左手には鷲羽岳、ワリモ岳がどっしりと見える。聞いていた雪渓が数か所。確かに踏み跡がないと対岸が分からないので迷うかも。

雪はザクザクで歩きやすい。ずっと雪渓なら歩きやすいのに。真砂岳が次第に大きくなって来るが、最後は頂上に行かず左へ巻いて裏銀座の稜線に出た。やれやれ。これまで快調にみんなを引っ張ってきた小林が不調を訴え、先に行けというので、高橋・山田コンビでお先に。野口五郎まで地図では30分というのに、これがまた遠い。野口五郎という名のとおり、大きな岩の歩きにくいゴーロが続く。縦走路から分かれて頂上へ340mという標識に従い頂上への道にはいる。この340mがまたまた長い。



真砂岳(左)と野口五郎に続く裏銀座稜線

疲れ切った体にこたえる急なジグザグ道。ジグザグのとおり

に測れば3倍ぐらいの距離になるのじゃないの。全くうんざりするしんどさ。それでもやっぱりテッペンに着くと嬉しいもんで、疲れていても写真ではニッコリ顔に。後続の二人は来そうもないので、小屋に向かって下る。下り始めると急に雨が降り出した。小屋まですぐだからいいかと思ったけど、結構強くなってきたので雨具着用。高橋は元気が余っているので、小屋までそのまま急ぎ足で駆け下りていく。すぐそこ思った小屋



野口五郎岳山頂と三角点

も意外と遠い。小雨になった小屋に到着。梅雨時期のこの山行を通じて雨に降られたのはこの5分間だけでした。去年の針ノ木では大嵐だったのに。まったくラッキーでした。



野口五郎小屋と雲の彼方の餓鬼岳

小屋でビールを飲みながら待っていたが後の二人はなかなか来ない。約30分遅れで小林が到着。調子悪そう。吉田はまだ来ないけどそのうち来るだろうとのんびり構えて寛いでいたら、浩史郎君が心配だから見に行ってきますと支度して出ようとしたところに丁度現れた。よかったよかった。それにしても、浩史郎君はえらいなあ。山の仲間の鑑です。吉田の体調は相変わらずよならず、夕食もほとんど食べられませんでした。小屋でも心配して気遣ってくれました。それにしてもこれでよくここまで来たもんだ。小屋の人が言うには、竹村新道を上ってくる人はバテバテの人も多く、あれは下りに使うコースだねと。ともかく、長い長い一日が終わりました。雨はすっかり止んで青空。明日も晴れるぞ。

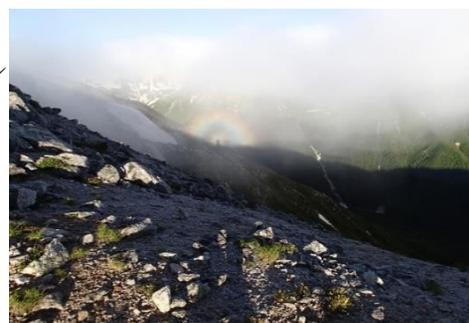
7月15日

期待通りの晴天。吉田はまだ回復せず。今日も朝飯抜き。気の毒。それでも元気に出発。さすがに2900mの高山とあってひんやりだけど、日差しが強く、また暑くなりそうな予感。大天井岳の向こうに富士山も見えている。ただ、西の立山や



薬師岳の方は雲がかかって、山は見え隠れ。この、西側のガスっぽいのが幸いしました。歩き始めてしばらくすると、なんとブロッケン現象がクッキリ。いいものを見せて貰って元気が湧いてきました。

この稜線、烏帽子岳に向かって概ね下りだから楽ちんかと高を括っていたけど、なかなかどうして、疲れの溜まった老人登山隊には結構こたえるアップダウン。三ッ岳を巻いて稜線が大きく右に折れるコルから烏帽子小屋が眼下のすぐそこに見える。もう30分かからないだろうと小休止。ところがどっこい、その希望的観測を裏切って、そこから倍の1時間かかりました。まさに、「見えてからが遠い」の格言どおり。



ブロッケン現象

いよいよ最後のブナダテ尾根の下り。北アルプス3大急登と言われるくらいだからそれなりの覚悟はしていたものの、所詮は下りだろうとここでも甘く見ていたけど、これもまたアテ外れ。昨年下った船窪新道に比べればはるかにマシだけど、相当きつい下り。「ドッコイショ、ドッコイショ」と自分を励ましながら下りていく。2日間メシ抜き吉田も途中までは頑張っていて一緒についてきたが、さすがに最後は遅れて独り歩き。長いジグザグ道から漸く濁沢の水場に下り立ち、コーヒーを沸かして飲みながら待つ。約40分遅れで到着。よく頑張りました。濁沢の立派な滝を上流に見て、ダンプの通るトンネルを抜けて高瀬ダムに到着。携帯電話は通じず、公衆電話でタクシーを呼んだら、入山した時と同じ運転手さんでした。

下山後の風呂はいつもの上原の湯ではなく、浩史郎君ご推薦の“心笑館[ココエカン] こまどめの湯”という綺麗な温泉。汗を流してさっぱりして高橋邸に。いつもながら豪華なおもてなしを戴きました。浩史郎君の奥様、お子様たちも一緒に。昨日も3人がお邪魔して、連日の押しかけ。恐縮です。取り敢えず良い報告で締めくくることができました。大満足です。

5. 山田のコースタイム(ご参考まで)

7月13日(木)

15:00 高瀬ダム発
16:00-16:05 車道終点
16:30 名無避難小屋
17:40 湯俣・晴嵐荘

7月14日(金)

05:35 湯俣・晴嵐荘発
06:20-06:35 古田慰霊碑
(途中2回、約20分休憩)
10:10-10:30 湯俣岳
(途中3回、約35分休憩)
13:35-13:45 南真砂岳
(途中2回、約20分休憩)
15:45 裏銀座縦走路
16:35-16:40 野口五郎岳
16:50 野口五郎小屋

7月15日(土)

05:35 野口五郎小屋発
(途中2回、約15分休憩)
08:40-09:00 烏帽子小屋
(途中1回、約10分休憩)
10:15-10:25 △ 2208.5
(途中1回、約5分休憩)
12:55-13:40 濁沢水場
14:10 高瀬ダム

掲載写真は小林と山田の合作です。
ほかの写真もOGAC HPのアルバムに
アップしています。アクセスしてください。

山で出会ったお花たち



ハクサンシャクナゲ 白山石楠花



イワハゼ 岩黄櫨



ゴゼンタチバナ 御前橘



マイヅルソウ 舞鶴草



コイワカガミ 小岩鏡



ツマトリソウ 端取草



チングルマ 稚児車



ハクサンイチゲ 白山一花



コマクサ 駒草



ムシトリスミレ 虫取堇



シナノキンバイ 信濃金梅